

日本のジャズ発祥地・神戸再考

いソノてルヲ 〈ジャズ評論家〉

筆者が慶応の学生バンドでドラマーを志していた頃、高島忠夫は関学の軽音楽部でドラムをたたいていた。その後間もなく彼は映画俳優になったがジャズが好きで銀座のジャズ喫茶へよく来た。私はそこで司会をしていた。昼間はアメリカ大使館員として情報関係の仕事をし、夕方は司会、夜はスイング・ジャーナル誌の原稿執筆……若さにまかせて一番よく働いていた時代である。その頃神戸へもよく来た。彼と親交を結ぶに当って彼は生れながらの神戸っ子、あだ名の通りボンボンであった。私の母は船員の娘で神戸女学院出身、私はいつか本誌にも書いたが混血の神戸っ子を自認している。さればこそラジオ関西で大橋巨泉と交替でスタートした電リクの出演からはじまり、実に十年以上も神戸で電波に声をのせていた。特にスポンサーもないのにジャズ番組をやらせて頂いた同局には本当に感謝している。

今回、編集部から表題のテーマをもらい、まずもって頭にうかぶのは私の番組を通してジャズ愛好家になられた多くの同志のことだ。私には日本中のどこよりも親しいジャズの仲間がいる……そ

れが神戸である。

戦前、日本で最初にジャズの楽団が誕生したのも神戸である。浅草出身で三越のブラス・バンドで音楽家となり太平洋航路でアメリカを往復する客船のバンドマスターから、宝塚ファンの船場の娘と結婚した井田一郎と言う人だ。彼のバンドは「ラフィング・スター・ジャズ・バンド」と称し高級カフェに出演したと記録にある。大正末期のことだ。私が高島君と親交を結んだのはそれから20年以上もたった後だが、今あらためて考えるとまたそれから20年以上もたっている。戦後30年の神戸のジャズ界をふりかえって見よう。

なつかしいのは「コペン」というジャズ喫茶で、故人になった白木秀雄や、平岡精二、中村八大人かよく出演した。

労音が演奏会を主催するようになって、我々の常宿する場所が中山手の「和香葉」になった。現在も神戸で最も洒落てスイングしている店「ソネ」の住年のホテル時代の名だ。このホテルの家庭的サービスを今もって忘れられぬ芸能人は枚挙にいとまがない。



高島忠夫氏(右)と筆者

私ごとで恐縮だが神戸へ行ったら必ず行く店が二つある。昼間はトア・ロードのデリカテッセン(世界一美味しいサンドイッチ)、夜は「ソネ」だ。水割を片手にスイング出来る点で、この店はジャズの醍醐味を充分味わわせてくれる。

近年、古い先みじかいのでギンギンのジャズ喫茶へはあまり行かなくなつた。「さりげなく」「ピサ」「バンビ」「クルセママ」「ニーニー」「とんぼ」「サテンドール」。それぞれ個性があつて楽しいが私は専ら「ソネ」だ。北村英治も渡辺貞夫も同じ気持を持っているし、アメリカから来るジャズメンの大半はここに集る。

近年ジャズは神戸の名誉市民に加えられた。文化ホールの完成と共に毎年暮になると神戸ジャズ祭(神戸ワイドワイドジャズ)が行われる。私は日本広しといえども地方自治体が直接ジャズのため予算を計上している所を寡聞にして知らない。アメリカではこれは常識で、ニューヨーク市など

はどんなに赤字でもジャズ助成金を出している。その点、東京はとても文化的に選れているし、神戸はすばらしい所だと思う。神戸まつりの時に在留外人が一緒になつてデパートの屋上でディキシーを楽しんでゐる。畏友・末広光夫君のたゆまぬ努力によつて育てられたディキシーの火も、はるかニューオルリンズにまで知られている。これは神戸のジャズの誇るべき事柄だ。世界一のアマチュア・ジャズは神戸にあり、ぜひとも応援して頂きたい。ジャズというのはいたいが船付場の音楽なのだ。そういう市の紅灯街でうぶ声をあげ、ギャングをスポンサーにして禁酒法時代のアメリカで広まった音楽なのである。

神戸がジャズにとっていかに居心地のよい所か容易に理解できる。昨年、他界された南里文雄氏も若き日をごさされた神戸をこよなく愛しておられた。明石の酒屋の若ダンナ伊藤隆文君は正統の南里後継者である。

テレビの人気者、オルガンの小曾根実君も生れ故郷に帰ってきているし、私にとって弟のように感じる慶大ライト・ミュージックの後輩の後藤剛君もテナーを持って健在だ。テナーなら「人形の家」の徳大寺君、ヴォーカルなら私の番組の長年の担当者、原田紀子さん……プロなら「ソネ」の川瀬トリオの諸君。何とすばらしい人達が神戸にはいることだろう。

22年の歴史を持つMJQが解散したが、ジャズファンは彼らのサウンドを決して忘れないだろう。私と神戸の戦後のジャズ・シーンはMJQのサウンドのように深く溶けあっている。それは私がこの町を愛する限り変らないであろう。

私と神戸と ジャズ

高島 忠夫 △俳優▽

終戦直後、バラックの我家の片隅に置いてあった古ぼけたラジオから甘美な音楽が流れてきた時私はシビレました。世の中にこんなステキな音楽があったのかと。それが私とジャズとの初対面だったのです。もともとジャズといっても厳密に言えばスロウバラードの『トウイーチヒズオウン』というヒットソングだったワケですが、当時はアメリカからの音楽は流行歌でもジャズソングとして扱われていたようです。しかしとにかく『流行歌』でもあれ私をジャズへとつないでくれたワケです。それから毎日勉強中も進駐軍放送を欠かず事はありませんでした。今の学生諸君の「ラジオと共に」の生活の「ながら族」のはしりだったワケですネ。

……で今度は自分でも演奏してみたくなりギターを欲しいと母にねだりました。昭和5年生れですから15才で



え・矢田貝充彦

したが……。モチロンピアノがあればそれに越したことはないのですが、焼跡では不可能です。母はギターをゆずるが米を欲しいという相手の話でアチコチから闇米をかき集め（何升だったかは？）古ぼけたスベインのギターを私にプレゼントしてくれました。それからまずハワイアン音楽に夢中になり、仲間とハワイアンバンドらしきものをつくりました。アチコチのホームパーティーへ行ったのを覚えています。その後神戸一中の友人と『レッド・キャッツ』というバンドをつくりましたが、メンバーに『日本沈没』の小松左京（ヴァイオリン）木村直（東宝、アメリカ駐在）などがいました。後年小松クンに聞くと、その昔、私の家内の寿美花代の自宅へ……旧姓松平といいますが……押しかけていったそうです。つまり松平家にはベッピン（これは彼の言葉）が二人いるか

らヴァイオリンでもこすればウットリとしてほれてくれるのではないかと……そしてこのお嬢さんは一体どんな男性と結ばれるのであろうかと思つてたら……なんとお前とは……^ウ 神も仏もないものか……とクサツていました。……失礼。

その後いよいよ本格的にジャズをやりたいという気持ち押えがたく、友人からの紹介で大丸の左どなりの『ニッケクラブ』へ出入りしているバンドを紹介してくれました。行く時にタバコでも持って行けよというのでアチコチ無理してタバコをかき集めました。それが「門脇博とアロハスイングスター」だったので。クラーク・ゲールみたいな鼻ヒゲをたくわえたハンサムな門脇さん……メンバーには今東京でスタジオリージュジャンとして大活躍の六島(アルト)高森(トランペット)テイチクレコードの名アレンジャー池田孝(トロンボーン)そして梅田コマのダンシングチームのボス矢田(ベース)などがズラリでしたが、タバコが効いたのか遊びについて来ていよいよ許されいよいよ進駐軍のクラブに出入りできるようになりました。そしてギターからドラムに転向しました。思い出しましたが作曲家、アレンジャー、ピアニストとして大活躍の宮川泰は、私がアロハスイングスターをやめた後入ったとの事です。その後トア・ロードのスマールフジ(パウリスタ)のテナーの大さん(残念ながら氏名忘れました)のバンドへちよつと入りました。そこでブルーコーツのリーダー森寿男、ファーストトランペットの木本……というより昨年度のミス・エールフランスのお父さんともいいますか……皆オッサンになってしまつて……それから名ドラマの猪俣猛と知合いました。最後がキー坊オーケストラ(アルト奏者でキー坊というニックネームをそのまま使っていたのです)が、名前は失念しました。です。ああその前に、ネクタイの元町バザーのななめ前のKMCという進駐軍のキヤバレーにも行つてました。チャリー菊川という二世で、歌もうたうリーダーでした。グレンミラーものが全

盛で、『インザムード』などをやると喜んだ兵士がビールをワンサと持つて来てくれるので、ビール欲しさにやたらに演奏したものです。その後『ビーバップ』が入つてきて、皆目見当つかないままドラムをたたいていたものです。軍人として来たジミー荒木というオールラウンドプレイヤーの吹込んだビクターレコードを参考にしたりしましたが、ちよつとついでいけないニュージャズでした。塩屋のオフイサースクラブのホールは豪華な印象もあり、また目の前で将校は軍服で奥さんはイヴニングドレスでというダンスパーティーはまるでアメリカ映画の一シーンを見るようでしたし、控室でのハンバーガー(肉たっぶり)やコーラ(はじめての黒い飲物なのではじめは毒入りと違うのかと疑がつた位です)はとても楽しみでした。住吉の住友さんのお宅を進駐軍クラブにしたという場所では、時々スードショウがありました。つまりダンシングチームが入ると軍の方からスードでやってくれと要求があるわけです。ダンサーは日本人の前ではイヤだという事になり、我々は控室にとじこめられピアニストだけ伴奏させられたのです。……で帰ってくるど皆で「オイ見たか!」と聞くとピアノの位置を変えられて完全に後向きとなり、横目でも見えなかったと口惜しがつてました。昔屋の上の「レインボウ」もなかなかいい演奏場所でした。天才ピアニストとうたわれた池田(今もムーンライトでやつてゐるのかしら)……池田さんにはピアノの手ほどきも受けましたし、最もなつかしい当時のプレイヤーです。以上プレイヤーの名前は敬称を略しましたがご了承下さい。

そして自分のジャズプレイヤーとしての行末に見限つて再び学園に……退学した神戸高校にはもどれないので関西学院高等部三年に転入させて頂いたので。口実は病気のため学籍をはなれ長期療養してましたと偽つて……。しかししばらくでもジャズの世界でメシを喰つたということは私の誇りでもあり、また現在の私にとってなによりの財産だと思つています。

MAKE UP WITH ROYAL

魅力アップは これで

世界超一流
ヨーロッパ・エレガンスを代表する
フレームコレクション



 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、第3水曜日がお休みです

三宮店（さんちかタウン）は装いを新たに
して、ご来店をお待ちしております。

純白無垢



ドイツ菓子 *Fachheim's*

ユ-ハイム

本 店 三宮生田神社前 TEL(331)1694
三 宮 店 三宮大丸前 TEL(331)2101
さんちか 店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL(391)3539

●特集
KOBÉ Jazz 50年

□座談会

死ぬまでジャズをやるなア。

□出席者

門脇 重博 ▲東亜観光株式会社▽

西村 雅司 ▲西村写真研究所▽

加藤 龍吉 ▲朝日放送、ハートウォーマーズ・ドラマ▽

伊藤 隆文 ▲伊藤酒店経営、トランペットター▽

末広 光夫 ▲ラジオ関西プロデューサー▽

★上海經由のジャズ

西村 戦前、うちは旅館をやつてたんですが、ある時アルサイドっていうアラビアの王様が△日本に來たから日本の宿に泊まりたい▽といつてうちの旅館にやつて來たんです。永い間泊つて親しくしてたんですけど、その間、うちの親父がアルサイドにあらん限りの悪いことを教えた。(笑) ある時ダンスホールへ連れていってね、その頃ダンスホールでは一曲踊ると一枚ちぎって渡すチケットがあつたでしょ、それをアルサイドがまぢがつて一人の女性に二曲で二冊

全部渡したんです。それを彼女が後で気がついて返しに來たんですね。

加藤 純情やなあ。(笑)

西村 それそれ。その純情さにアルサイドが惚れてしまつて、本國に歸つて弟に王位を譲り、すぐに日本に戻つて彼女と結婚したんです。うちの親父が仲人しました。チケットの渡しまちがいが縁で結ばれたんですね。その後すぐに奥さんは肺結核でなくなつてしまひましてね。王は失意で帰國しました。王も戦後なくなつたらしいです。

門脇 ダンスホールの「ダイヤ」



え・矢田貝充彦

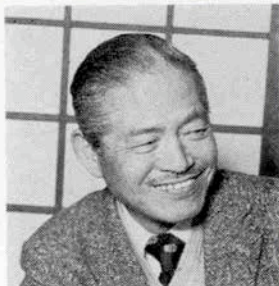
にフィリピン人とかハワイの連中がバンドでよく入つてましてね、それがトランペットなしでサキソフォン3本のバンド。

加藤 その頃すでにスーパースックス。(笑)

門脇 うん、譜面もないんだけど自分たちでハーモニーつけてね。それがまたとってもきれいですよ。その連中も日本人の奥さんが多かつたですよ。

西村 ジャズがとりもつ国際ロマんだね。

末広 大正のジャズ創始期から昭和十五年のダンスホール閉鎖まで日本のジャズ界を常にリードした



門脇重博さん

人で井田一郎っていう人がいたんですが、この人が大正の終りに神戸で「ラファイイング・スター・ジャズバンド」を編成したんです。これが日本で最初のジャズバンドなんです。その井田さんを門脇さんが知ってるんですね。



西村雅司さん

門脇 私がまだ法政の学生の時ですが、昭和六年頃だったかな、東京の靖国神社の近くで学校のすぐ裏なんですけど、「九段ダンスホール」があつて、夜の部ではコロン



加藤龍吉さん

ビアのオーケストラが入っていてそこに角田孝さんがいたのです。私は角田さんにバンジョーを教えてもらっていたのですが、その時のバンジョーの教則本を著わされたのが井田一郎さんなのです。日本で最初のバンジョーの教則本ですね。とにかく私たち学生からしてみれば井田一郎っていうと神様でしたよ。

末広 門脇さんは井田一郎さんの演奏も聴かれたわけですか。

門脇 いえ、残念ながら演奏は聴いていないんです。

最初に私がジャズに触れたのは小学校の六年生ぐらいの時、大阪です。松竹座で黒人が三人でジャズを演奏してたのを聴いたことに始まるんです。それからジャズのレコードを買ったのが昭和四年ぐらいだったように思います。私が演奏したのは昭和九年頃からですね。

末広 どこで演奏されていたのですか。

門脇 学生の頃で、演奏旅行みたいなものでハイアンバンドだったのですが、京都の「東山ダンスホール」それから阪神国道の「ダンスパレス」や「花隈ダンスホール」なんかで演奏しました。

末広 その頃どんな人がいたのでしょうか。

門脇 「花隈」にはピアノの芝辻

さん。飯山さんとか。

末広 南里文雄さんもどこかでやってたんですね。

門脇 だと思いがすが……。

伊藤 元町のなんとかいうところでやってたはずですよ。

末広 水島早苗さんも一時神戸で唄ってましたよ。水島さんについてもすごくきれいだったね。

伊藤 すごい美人。小説のモデルになったこともあるんですよ。

門脇 昭和六年に、遊びで行ったのですが、上海へ行きました。

末広 昭和六年といえどアメリカが不景気でみんな上海へ逃げてた時ですね。南里さんも上海でジャズを覚えたはずですよ。

加藤 フランス租界の一流クラブに出演していた黒人ピアニストのテイ・ウエザーフォードがいたんだよね。

門脇 私はその時学生だったのであまりいいホールへは行かなかつたのでね。(笑) フランス租界のクラブ風ホールで、ヴァイウが入ったバンドが最も印象に残っています。

末広 私の説ですが、日本にジャズが入ってきたのはアメリカからダイレクトに入ってきたのではなく、全部上海経由だということですね。アメリカのいいブレイヤーはかなり上海にきてましたね。それで日本人も上海へ行くとうまくな

るって、どんどんいってました。
★初めてのジャズ演奏会

西村 うちの親父が昭和二十年にへちまクラブという文化事業団体をつくって、そしてミーティングの会場を建てたんです。そこでのいろんな講演会をやってたんですが終戦すぐの金のない時、もののない時なので人が全然集まらない



伊藤隆文さん

ですね。そんな講演会を続けていくうちに、ある時たまたま内田英一さんが来ていて、△あなた、へちまクラブといういい会場があるんだから、この会場を使って軽音楽の鑑賞会をやりませんか▽と私にいったんです。それで五、六人



末広光夫さん

でのレコードコンサートを始めました。これが昭和二十二、三年ぐらいです。その頃すでに関西シン

グ愛好協会大阪支部というのがあって、内田さん、白壁武彌さん、それに油井正一さんが大阪でやってました。その神戸支部をつくっていうことで、週一回だったか、へちまクラブでレコードコンサートを始めました。もっぱらレコード鑑賞で、78回転のシャーシャーというレコードですが、それがまた重いんですね。その重いのを内田さんが毎回無報酬で両手にさげて大阪から持ってくるんです。内田さんも大変だったことでしょう。それで五、六年経った頃に、△聞くばかりだったら、おもしろくないで△いいでした。(笑)というのはその頃、KMCとかキャスバとか盛んだったんですね。四、五年の間、二十人くらいでやっていたこのコンサートも親和学園の講堂を借りて満員になるほどに発展してたんです。それで油井さんらに△生演奏やろうや▽というてね、一番初めに演ったんが、チャーリー菊川。チャーリーに△すまんけど生演奏やってくれへんか▽いうと、△俺、踊るんやったら演奏したことあるけど、黙って聴くのしたことない▽**(爆笑)**末広 それ。当時はみんなそれでね、ミュージシャンは嫌がってし

まうんです。△聴くんですか？▽
ってね。(笑)

西村 それをなだめすかして、とにかくやってくれて、ポスター作ってプログラム配って親和学園の講堂で第一回をやったんです。いざ幕開きというのが愉快やった。まず、テーマを演奏して、そのテーマが終りかけたら幕を開けて内田英一さんが司会に出る、という打ち合せでやってたんですけど、いざ始めるという時にチャーリー菊川が幕をギョツとにぎってね、△西村さん、俺がこの手を離すまで幕を開けたらあかんで▽いうんよね。というのは、始める前にチャーリーが幕の間から客席を見たらいいんだ。客席はシーンとして、もう真剣になって見てるんや。キャバレーで飲みながら、踊りながらと勝手がちがうんよ。チャーリーの手ふるえつとった。結局テーマ二回やったよ。テーマ一回やってもまだ手を離さへん。末広 演るほうも初めてだけど、聴くほうも初めてですもんね。
(笑)

西村 門脇さんにも出してもらったことがありましたね。

末広 どんなのを演奏してたんですか。

門脇 私はスチールギターで、いわゆるナインピース。自分でアレンジしてね。「ハワイアン。パラダ



故井田一郎氏

イス」とかのハワイアンの曲が多かったですね。

加藤 あの当時はね、高島のボンがチャーリー菊川さんとこのバンドボーイでおったんですよ。

門脇 いたいた。そして私のいたニッケビルのほうにもよくタイコたたきに来てたよ。

★右近雅夫の出現

西村 それからしばらくしてラジオ神戸（現在のラジオ関西）が開局したんですね。

末広 昭和二十七年です。

西村 ジャズとクラシックとの共通点を探るっていう番組がありま



ジャズ喫茶「月光」（昭和32年頃）

したね。

加藤 あれはおもしろかった。

西村 このへんの番組なんかは油井さんの貢献が大きかったね。

末広 結局あれが電話リクエストのきっかけになったんです。ジャズとクラシックそれぞれを電話で応援してきました。門脇さんはいつ頃までプレイされてたのですか。

門脇 ええ一つと、新世紀が最後でした。

伊藤 新世紀が最後でした？ そうでしたか。

門脇 あの時ターヤンも一緒やったな。

伊藤 そうです。毎週火曜日でしたか、デイキシーやりましたね。あれがおもしろかった。八時から三十分間ですね、顔を黒く塗ったり、コジキの恰好したりしてね。門脇さんがウォッシュボード叩いて。あのウォッシュボードがすごかった。今ならウォッシュボード叩いてるのが沢山いますけど、全然比やない。抜群でした。昭和三十一年、二年頃ですね。

門脇 ターヤンが「聖ジェームス病院」を唄ってね。これがまたよかったです。（笑）

伊藤 あのおかげで、関学を卒業してから宝塚のオーケストラボックスに就職が決ったけど、十日間ぐらい働いて、新世紀と一緒にや

ってた連中がまた一緒にやろって新開地の「白馬車」へ行ったんです。

末広 当時は「白馬車」「月光」「コペン」。これが神戸のジャズ喫茶で、「コペン」はだいたい渡辺プロダクションが入ってた。ハナ肇とかいいプレイヤールがよく来てましたね。

門脇 ターヤンは南里さんと会ったのはいつ頃？

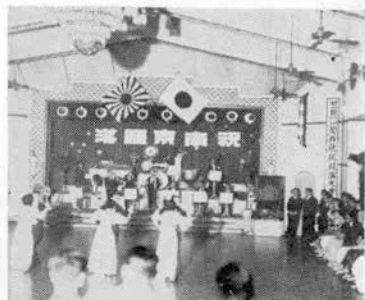
伊藤 昭和三十年頃。ジャズ喫茶が盛んな頃で、東京から南里のオヤジさんがよく神戸に来てたんです。関西にもデイキシーのバンドがおまつせ、いうことで南里さんが来るとデモンストレーションしてたわけ。オヤジさん（南里文雄のこと）も関西出身ですから、関西のラップ吹きということで、はじめのうちは△伊藤君▽いつてたのがそのうち△ターヤン▽と呼ばれてました。△ターヤン▽、そこ、そんな無理して吹くことあれへんで▽というね。（笑）

門脇 ターヤンは南里さんとの付き合いは永かった？

伊藤 わりあい永かった。

門脇 そそっかしいだろ。

伊藤 ほんまに子供みたいな人ですね。自分のバンドの「ホットペーパーズ」のメンバーよりかわいがってくれましたね。スタイルがちょっとちがってたんですけどね。



阪神国道「ダンスバレス」の様子 昭和14年

末広 昭和三十年というところ「ハートウォーマーズ」の右近雅夫がブラジルへ行った年。

加藤 右近、根性はしっかりしとるで。あれこそ片意地や。

末広 だからやれた。

加藤 妥協がないんやね。

伊藤 ええ意味の片輪やね。

末広 彼の話を聞いてるとまるでビックスパイダーベックそっくりなんよ。フルバンドがいやで帰ってしまったら、譜面なんてやれんって帰ったり。(笑)

加藤 ほんまによう帰ってしまひ



幻のトランペッターといわれる右近雅夫の近影(ブラジルにて)と彼の演奏が入ったレコード



よった、楽器ボーンとしまつて。伊藤 何の時やったか、△ワシ、関学の軽音楽部でこんな曲吹きに来たんちがうワ、あとなのむで▽いうて帰ってしまふ。(笑)

加藤 ある時宝塚にアトラクションに呼ばれてね。プールの上に浮いたステージがあつて、そこへ皆上つてくれいわれて、譜面くばられて。右近が譜面みたらこれがまた右近の気に入らん譜面。(笑) 楽器しまつてスーツと帰りよる。

△お前どこへ行くんや?▽いうところ△こんな吹けるか!▽(笑)あの時は驚いた。みんなとめたけどどうとう帰ってしまった。

末広 でも彼が中心になつて「オリジナル・ディキシラランド・ハート・ウォーマーズ」というバンドを作つて、その上に自分たちでレコードをつくつたのが、日本のアマチュアの最初のレコードになる。ターヤンは右近君を意識してた?

伊藤 いえいえ、関学の軽音楽部に入った時には僕と山田静範君の二人が明石高校からのコンビで、彼が一番、僕が二番トランペッターでね。その頃、ディキシシーなんて全然知らなかつたんです。右近さんがディキシシーの話ばかりしてくれてね。僕より二年上級生なんです。一度家へおいで、いわれて一日中カンツメにされてディキシ

シーのレコードを聞かされたことがあります。

加藤 マグシー・スパニアのレコードが多かつたでしょ。

伊藤 そうです。ほとんどマグシーでした。

加藤 ^{ハイトーン}高音をあんまり使われない中音の魅力やな、右近もマグシーもどちらも。

伊藤 どうしてもトランペッターはハイトーンに魅力を感じてしまつてね……。

加藤 中音を大事に吹いてるといふのが一番ええんや。

伊藤 ほんとに計算すると中音で吹くべきなんです。ただどついつウケたがつてピュートツと高い音を吹いてしまふんです。

★忘れることのできない進駐軍

末広 アメリカのジャズの発展にはシカゴのギャングを忘れることができないのと同じように、日本のジャズには進駐軍を忘れることができないんです。

西村 進駐軍で思い出したけど、警察学校の生徒であつたある警察官が、△西村さん、警察学校の課外授業でジャズの話をしてくれませんか、予算はないんですけど▽ついでついで来たんです。それで、電蓄とレコードをかついで松原の警察学校で課外講師を始めた。毎週一回一年間。その後三年目にお

かったことだけど、僕にはちゃんと講師料が出てたんです。それを三文判で受け取ってたんですが、そののみに来た警察官。それが現在作家で活躍中の春木一夫や。(笑) 〆お前その金何に使った? 〆いうと、〆西村さん、よう一緒に飲みに行きましたでしよ。(笑)

その警察学校でやつてる時に、春木君が〆聴くばっかりもええけど、演りたいっていうのがおるんです。何かええ楽器ありませんか? 〆√っていうんで、MP本部を紹介したんです。春木君が行ってね、〆地下室に楽器がゴロゴロしてたで√といって全部もらってきた。それが今の兵庫県警のブラスパンドの前身や。(笑) 県警ブラスパンドの創立の本当の意味でイニシアチブをとったのが春木君になる。(笑)

末広 そんな話になると、さあ龍ちゃんの出番や。

加藤 やめときいて。そんな大きなことできへんて。(笑)

末広 「オリジナル・デイキシーランド・ハート・ウォーマーズ」のもと龍ちゃんのドラムセット。進駐軍からもってきたドラムセット。(笑)

加藤 ほんま、日本のジャズの発展には進駐軍を忘れることができません。(笑)

末広 楽器の調達だけでなく、そ

こで演奏すると聴いてくれるという点があった。

伊藤 ええ演奏したら拍手をくれるのがなんといつても嬉しかったね。神戸だけでもいっぱいありましたね。僕がまだ学生で、門脇さんとこへバンドボーイでいった頃演奏のあといるんなものももらいに行く役だった。

末広 何をもらいに?

伊藤 コーラとかビスケットとかをね。(笑)

加藤 演奏したらビールをおごってくれたな。タバコ一箱放つてくれたり。

伊藤 リクエストの曲をやったりウケたりしたら喜んでくれるものな。

加藤 ドラムのまわりにシンフィズがいっぱい。それ飲みながら演っててしまいにドーンって椅子から落ちたことがある。(笑) 急にドラムの音が止んだから他のメンバーが後ろをふり向いたら僕がおらへん。(笑) ステージの横からまた上がってきて叩いてた。(笑) 末広 当時は進駐軍へ出るったつても査定があったよね。AクラスからCクラスぐらいまでに分けてそれによってギヤラも決ってた。だから誰でも進駐軍のキャンプで演奏できるわけではなかったんですね。

加藤 僕は北野劇場が査定の場合

でした。

伊藤 僕は甲子園。甲子園のキャンプは広かったね。

末広 今の浜甲子園団地だね。

★「関西デイキシー」の精神

伊藤 デイキシーの活躍といつても今は楽しんでやるグループぐらいですね。

末広 ジャズはそれでいいんじゃないですか。

西村 そうだと思いますね。

伊藤 プロやめてアマチュアになつてもどうしても楽器やめられんという連中はみんなデイキシーですね。そんな連中は死ぬまでやめんな。(笑)

末広 神戸のデイキシーのグループはみんな結成十年以上たってるんですよ。これは東京の連中が感心しますね。よくあそこまでできるなつて。CRホールでやった第一回のパーティの録音のレコードに油井さんに書いてもらった言葉 〆関西デイキシーということばは今も誰も使っていないけれど、やがては関西デイキシーっていうことをわかってくれるはずだ。というのは神戸にこれだけのメンバーが集ってやっている。しかもアマチュアで。これはどこにもない独特のもので、この精神がずっと続いていくんじゃないか、これでやっついていこうとすることですね。

旅のご相談は…



山陽交通社へ

陽炎ゆらめく、淡路島を一望に…
桜とつつじの美しい

須磨浦山上遊園



須磨浦ドレミファ噴水パレス

春のおどり ★好評開演中!

■期間 4月12日までと/4月17日・18日/4月24日～
5月5日(但し4・27と5・4は定休日)

■1日3回公演 ①11:50 ②13:50 ③15:40

●噴水パレスへのコース＝ロープウェイ→カーレーター→
回転展望閣→観光リフト→山上遊苑→噴水パレスへ

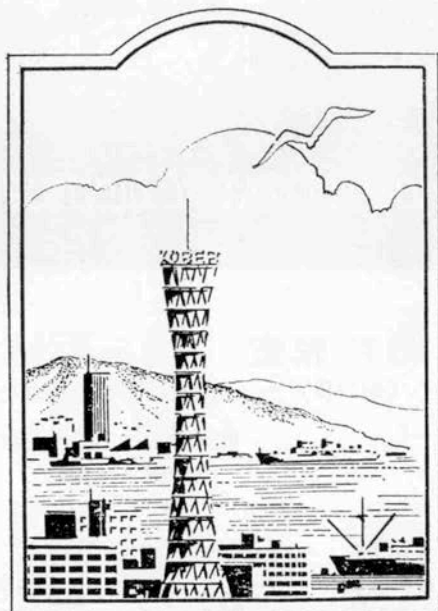
■ロープウェイ 17時25分まで運転
(日・祝日と4月15日までは1時間延長)

■山上遊園各施設は毎週火曜日定休
(但し4月15日までは無休)

山陽電車

須磨浦公園駅下車
(阪急・阪神から直通)

マイ神戸、マイホテル



潮風が詩い、ファッションが踊る。ミナト町
神戸のロマンチックな思い出は、神戸タワー
サイドホテルから——エコノミカルな料金
システムや、神戸を代表するシーサイドレス
トランで楽しめるヨーロッパの味。あなたの
旅のいち日を、心をこめてお迎えいたします。
シングル¥2,500～¥3,800 ツイン¥6,000 ダブル¥6,800



神戸タワーサイドホテル

〒650 神戸市生田区波止場町1
TEL (078) 351-2151 (代)

幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分

金曜日 午後1時30分

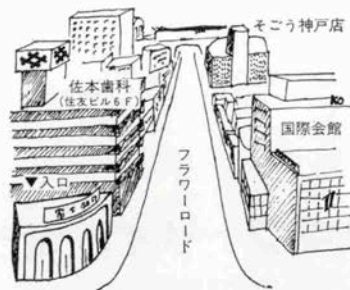
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口

住友銀行三宮ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39

TEL (078)331-6302~3



こんにちは赤ちゃん



鷹岡澄子ちゃん / 芦屋市平田北町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号

国道芦屋川電停東50米(明治生命南)

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

●特集 KOBÉ Jazz 50年 神戸のジャズスペース

神戸でジャズのバンドが誕生したのは五〇年前のこと。井田一郎のラフイング・スター・ジャズバンドがそれ。日本で最初のジャズバンドである。戦後、日本のジャズ界は東京に集中し、そして発展してきた。そこから世界へはばたく演奏者も現出した。しかし、ジャズ発祥地、アメリカ・ニューオーリンズにおいてさえ消えつつあるディキシーランドジャズの生命を今なお守りつづけているのが神戸なのである。そんな風にして神戸では、日本のジャズ発祥地である

ことで責任を果たしてきた。それでは今現在神戸の演奏者はどこでどのように活躍しているのか。神戸の街を案内してみると、★ジャズ——生の音が聴ける店

サテンドール

生田区中山手通一
電話二二二〇五五
川瀬健ピアノトリオがこのハウ



サテンドールの宮原透トリオ

スバンド。彼のピアノは全国的。ドラム・北村吉彦、ベース・曾根辰夫。全国のジャズメン、海外の演奏者が神戸に來れば必ず立ち寄り、このトリオに加わって演奏する。

パンジョーハウス

生田区中山手
電話二四一六二〇二
ソネの姉妹店として誕生。パンジョーのサミーが抜群のテクニクで楽しませてくれる。

デキシーランド

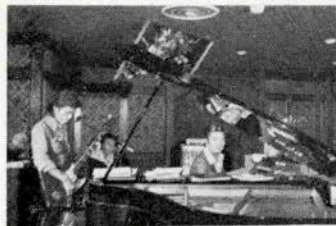
ニューポートホテル北側
電話二五一七二七七
マスター・中川宗和のピアノ。時には仲間が集まりジャムセッションがくりひろげられる。

サントノーレ北野店

中山手 ダイワナイトブラザビル
電話二二一三八八六
小曾根実(ハモンドオルガン、ピアノ)トリオによるポピュラーからスタンダードジャズ。幅広く快いオゾネ・サウンドが聞ける。ドラム・西野邦夫、ベース・玉井英二。

コロコパド

北野町 アニルドマンション



サントノーレの小曾根実トリオ

電話二四二二〇四〇
毎週土曜日にピアノトリオ(ピアノ・若江敏樹、ドラム・中島要、ベース・武田美治、ヴォーカル・岩佐京子) 落ち着いた雰囲気と酒とジャズが楽しめる。

アルパトロス

中山手 ダイワナイトブラザビル
電話三三一一三〇〇
鍋島直樹のピアノトリオによるジャズ。スタンダードジャズが主。時には女性ヴォーカルが加わる。

シェーキーズ

北長狭? ファンタジービル
電話三三一一〇八七〇
開店したばかりのパンジョーとピアノで有名なビザチエーン店。この店ではアマチュアディキシーグループレッパビッグ・ディキシーや甲南大学のディキシーグループ。それに東京から移ってきた鈴木建彦のゴキゲンなトランペットが加わる。

ポッサリオ

明石駅前
電話〇七八一九二一八三二〇
南里文雄なきあとを引き継ぐ伊藤隆文のトランペットに津野兄弟の2トロンボーンのディキシーバンドが演奏。



外人客も多いデキシーランド

★ジャズ——レコードが聴ける店
ピサ
生田筋岸ビル地下
電話三三一一〇八五九
二二二
下山手? 神戸サウナビル地下
電話三三一一八九〇八

北長狭?

さりげなく
電話三三一一九七六二
トンボ
国鉄元町駅山側
電話三三一一九五三七

パンピ

北長狭?
電話三三一一〇四五三
クルセマ
元町?
電話三三一一一三三五

ゴールドリーフ

北長狭?
電話三三一一〇三七五
パブ ローハイド
電話三三一一八六七八

北長狭?

電話三三一一八六七八



ポッサリオに集るディキシー仲間